

特活) 歯科医学教育国際支援機構・ニュースレター 2021年7月号

OISDE ラオス事務所・所長 持田寿光特別寄稿

コロナ禍でのラオス(2021年6月現在)

2021年4月22日にコロナの新規感染者が久しぶりに発生して以来、ラオスでは2回目のロックダウンに入りましたが、期間が2回延長され、6月19日までとなりました。ただ、相次ぐ延長で首都ビエンチャンの人々は辟易しており、多くが店を開け、普通に人も出歩いています。ロックダウンで越県も禁止されているのですが、ワクチンを2回接種して1ヶ月経った者のみ、所管の監督庁から許可を得れば移動できます。しかし、他県では首都ビエンチャンでの新規感染者が収まらないという印象を持っており、ビエンチャン住民の流入を禁止する県が多数あります。

ワクチン接種ですが、当初はアストラゼネカ製、スクープ製、シノファーム製が多数寄付され、医療従事者を優先としながらも、在住の外国人にも無料で接種を推奨しておりました。そして、今月に入ってファイザー製が寄付されたのですが、50,000人分のみだったため、各接種場所で(主に病院になりますが)、我も我もと大騒ぎになりました。Facebookにその模様がアップされていたのですが(その後削除)、まるで銀行破綻時の取り付け騒ぎのような印象を受けました。ファイザー製ワクチンの接種は60才以上で何らかの疾患の既往症あり、或いは医療従事者のみと、政府は様々な制限をしていました。しかし、蓋を開けてみると、制限に関係なく人が群がりました。韓国大使館が職員のために接種の登録をしたのに、病院の管理ミスで在庫が無くなってしまい、職員が打てなかったと憤慨していました。他のワクチンは在庫はまだある中、ファイザー製は4日間で在庫切れになりました。

事務所長の私は、ワクチン接種について当初は様子見をしておりましたが、ファイザー製が寄付された時点で、関係者に登録を依頼しました。上述の通り、ワクチン接種をしていないと越県もできなくなり現事業に影響が出てしまうため、医療関係者にねじ込んでもらい、ファイザー製ワクチンの接種開始初日に終わりました。大騒ぎになったのは2日目以降だったようで、第1回目の接種でしたが無事に接種できて胸を撫で下ろしているところです。



ビエンチャンのワクチン接種会場

特活) 齒科医学教育国際支援機構 本部事務所 東京都中野区沼袋 1-44-2

Tel/fax 03-3386-6605 email: oisdetokyo@gmail.com HP: oisde.com